

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 24 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870500638		
法人名	NPO法人 ワーカーズ・コレクティブひと		
事業所名	グループホーム夕日館		
所在地	愛媛県新居浜市萩生2720-1 (電話) 0897-40-3444		
管理者	高橋 光子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 1 月 17 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 24 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 12 月 18 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 18 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.6 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	約18,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 12 月 18 日事業所記入)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1		名	要介護2		3 名
要介護3		1 名	要介護4		2 名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 81.8 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、働く人が出資し合い経営するNPO法人である。法人関連の居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、デイサービス、フリーハウス、さらに協力医療機関と共に24時間体制で利用者の生活と健康を支えるシステムができています。よって、利用者や家族からの希望があれば、家族と相談・協力しながら看取りまで行っている。ホームは住宅地にある民家改修型の平屋の一軒家である。昔ながらの玄関や部屋と廊下の段差、深めの浴槽も職員の見守りと支援により利用者の負担となっていない。建物中央のリビングには利用者の得意な歌や手拍子、笑い

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

栄養士にカロリー計算や栄養バランスの点検を依頼し、年3~4回チェックを受け、また献立を見直し、今まで以上に高齢者に適した食事となるよう、職員は気を配っている。市担当者と連絡を密に取り、運営の助言等も得ている。ベテラン職員も初心者介護研修を受け、常に新しい技術を習得している。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

全職員が前回の自己及び外部評価を見直し、一人ひとりが自己評価を行い、管理者がまとめて作成している。外部評価結果は次回の運営推進会議で取り上げる予定である。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

市や県が定期的に行うグループホームの指導報告や、改善状況の説明をしている。外部研修の報告も、参加した職員自ら発表している。訪問看護ステーションの看護師は感染症の説明などを行っている。ホームは地域の情報を得る場、地域の方々が高齢者福祉や健康づくりの知識を得られる会と双方向の会議になっている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族会は敬老会などイベントと共に行われることもあり、利用者・家族・職員が親睦を深められる場となっている。利用者はごく近隣の方々で、家族の面会も多く、意見を直接聞くことができる。重要事項説明書に苦情申し立て窓口をホーム以外にも複数明記している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

ホームとして自治会に入会しており、自治会館の清掃や側溝掃除などの奉仕作業にも職員が参加している。利用者が地域住民なので、通院や散歩をすれば知人に会えるという好条件に恵まれている。「ホーム便り」を近隣のデイサービスと共同で周辺の住民200軒ほどに手配りし、ホームに対して友好的に接してもらえるようになった。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム夕日館

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

高橋 光子

評価完了日

平成 19 年 12 月 14 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 買い物や散歩を通し、地域の中に出かけていくことと、近所の方に訪問していただける雰囲気作りをしている。住み慣れたところで最期までその人らしく過ごせるように援助したい。  (外部評価) 開設当初の理念を全職員で見直し、現状にあった新しい理念を作成している。運営者・管理者・職員は利用者が地域の一員でいつづけられるように「のんびり、気ままに、過ごしましょう～住み慣れたところで最後まで～」の理念をホーム内に掲示し常に心がけている。	※	自治会行事への積極的な参加（盆踊りや祭り）
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 定期的に会を持ち、認知症介護の理念と事業所の理念を確かめる。  (外部評価) 管理者と職員は、理念の内容を「利用者一人ひとりの日々の生活ペースを守る」と理解している。同時に職員間でも介護の方法が業務優先になっていないか振り返り、見直す基準にしている。	※	利用者や職員が変わるたび確認と見直しを行う。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 定期的な便りの発行。事業所内に掲示し分かりやすくしている。	※	職員が夕日館便りを手配りしている。利用者とかけることも或る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣家が大家さんで日頃よりお世話になり、またすぐにいるいろいろなことを相談しやすい環境にある。近所の方から野菜を頂くこともある。	※	お茶の時間に近所の方を誘ってみたい。あいさつ・声掛けはしている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会には加入している。 掃除や祭りの寄付を行っている。 小中学校のバザーなどにも出かけていく。	※	老人会には参加していないので考えていきたい。 盆踊りなどの行事にも参加したい。
			(外部評価) ホームとして自治会に加入している。回覧板や近隣住民、地元在住の職員や法人関連施設などから地域行事の情報を得ている。公民館の落語会や盆踊りにも出かけている。管理者・職員は利用者の好みに合ったイベントを探し、外出予定を立てている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 便りに相談窓口を明記している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は各人が記入し話し合いの上、事業所の状態を確認する。自己評価・外部評価を活かすため話し合いの機会を持ち実行する。	※	改善に取り組む方法を確立したい。
			(外部評価) 設立9年目を迎え、看取りも経験し、職員の介護力は高い。しかし運営者・管理者は、外部評価や行政調査など外部からの意見を積極的に受け入れ、改善箇所を見出している。職員は、自己評価をできていること・できていないことの確認の機会と捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価結果は運営推進会議で報告し、取り組み状況を説明する。頂いた意見は、記録し事業所内で話し合いのうえ、実行する。  (外部評価) 会議メンバーは利用者家族・包括支援センター所長・民生委員、自治会長・訪問看護ステーション看護師などである。テーマは月1回開催のチーム会議で決めている。職員は2人一組で順番に担当し、研修報告なども行っている。防災がテーマの会議では避難先の確保が難しいことを挙げ、隣家3軒ほどの自宅提供者が得られた。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営に関する質問などが、とてもしやすい関係が出来ていると思う。 待機者数の状況を月に一度報告している。 福祉課と連携し生活保護の方を受け入れ支援している。  (外部評価) 地域包括支援センター・市福祉課など行政の相談窓口を多く持ち、入居希望者が利用前、入居時、入居後の生活を円滑に送れるよう努めている。運営推進会議に出席できなかった行政担当者には会議の報告書と次回の案内を送っている。市のワークキャンプ事業で夏休み中の中・高校生の2泊3日の体験を5年間受け入れている。	※	GH親睦会やケアマネ連絡会に参加していく。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、概要説明は出来る。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、知識を広める。運営推進会議の議題にもする。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書・重要事項説明書・情報提供票などの内容に沿って、説明する。	※	職員全部が契約の内容をよく理解できる機会を持ちたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見や不満・苦情は職員間で共有し、改善している。(文書での回覧・会議での話し合い) 外部への公表は個人情報に配慮しつつ、申し出があれば公開する。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 夕日館便りの配布。 個別ニュースの送付、または手渡し。 利用者個室に写真の掲示。  (外部評価) 利用料金を現金で納入するシステムになっているため、家族と月1回は必ず面談の機会があり、近況報告をしたり要望を聞いている。約2か月に1回発行の「ホーム便り」や、誕生日やドライブ先での写真を載せた「個人便り」も家族に渡している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見や不満・苦情は職員間で共有し、改善している。(文書での回覧・会議での話し合い) 外部への公表は個人情報に配慮しつつ、申し出があれば公開する。  (外部評価) 家族会は年2回程度行っている。面会時に家族から出た意見は全職員に伝わるよう業務日誌に記録し、職員は確認した日付を記入している。重要なものは苦情処理報告書ファイルに記入し保管している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営会議（チーム会）と定例会（法人の運営）に参加する。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居初期・ターミナル期・病気の時・入浴介助が二人必要なとき・等々調整している。	※	職員数が限られているので法人内で調整できるシステムを確立したい
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動は最低限に抑えている。  (外部評価) 職員の異動は極力避けている。異動の際はホームでの経験が長い職員と新入職員が2人一組で勤務にあたり、利用者や職員が早く、スムーズに馴染めるよう工夫している。	※	なじみの関係が馴染みに成らぬように配慮したい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間研修計画を作成し実施する。 また、年間計画以外の研修も参加希望者を募り、公平になるよう機会を設けている。  (外部評価) 全職員の年間研修計画表を作成し、見やすいところに掲示している。運営者は、各職員が回数や研修内容に偏りなく、また必要な研修が受けられるよう配慮している。職員は希望を出し、業務内外で積極的に受講している。ホーム内でも職員同士が教え合い、共に考える姿勢が見られる。	※	実践者研修の全員参加を目指している。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域のグループホーム親睦会や相互研修への参加  (外部評価) 市内のグループホームの管理者会や親睦会に参加している。職員は1日他のグループホームを訪問する相互研修を行っており、知識の共有化や高齢者福祉施設として地域全体のサービスの向上に努めている。	※	ケアマネ協議会へ参加予定（平成20年2月発足）
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) レクリエーションや親睦会を行う。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 発言・研修参加への機会均等を図っている。各自の得意分野を伸ばし、業務分担を進め役割を持つ。不得意分野はお互いに指摘しあいスキルアップにつなげる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人からの利用申し込みは少なく、入居直前の相談援助となっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 待機中に1ヶ月に1度の割合で様子を尋ねている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居申し込み以外の困りごとには居宅のケアマネなどの紹介にとどまっている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) できていない。  (外部評価) 本人や家族の見学は随時受け入れている。同一法人のデイサービスを利用してから入居となる場合も多く、顔馴染みの利用者や職員との関係を絶たない生活が継続できている。ホームが満室の場合は待機者一人ひとりに定期的に電話連絡を取ったり、訪問して健康状態の把握に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 年を重ねた人から教わることが多いことをいつも考えるよう努めている。 また、小さなGHなので、一緒に楽しんだり喜んだりして家族的になることが出来ている。  (外部評価) 入居以来の経年により介護度が上がり、感情の表出が少なくなると、会話も難しくなっている。しかし日々の生活の中で、料理のだしの取り方や野菜の育て方など、教えてもらうことは多い。職員は、利用者の過去の生活歴や趣味を基に会話を引き出している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今までの介護の苦労や達成感を共有できるよう、これからも一緒に支えていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 困難な関係であったとしても先入観を持たず支援できるよう努めている。	※	入所時点で家族関係がますます希薄にならないようにどうすればよいか？考えていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活暦を把握し、馴染みの人が訪問しやすい雰囲気を作るよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 良好な関係のときはもちろん、不穏な関係になったときもかかわり方を工夫している。 自室に閉じこもりきりにならないよう声を掛ける。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 看取りの場合は、通夜や告別式にも参加し、家族の気持ちに配慮し、身の回りの物の片付けなども手伝う。 入院で退所された方は病院でなくなり、今まで支援の継続の必要な方はいなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 傾聴し記録し職員間の情報の共有を図る。意思表示が困難な場合、職員本位にならないように注意しながら職員で意見を出し合い推測する。  (外部評価) 家族の意向は面会時に聞くことが多い。リビングや台所などで利用者は職員との会話を楽しみ、その中で職員はケアのポイントとなる希望を聞き取っている。夜勤時にゆっくり利用者の思いを聞くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントシートを活用することも或る。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個別記録を充実し、一人ひとりのリズムを見守っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族・職員・医療関係者に意見を求め作成する。  (外部評価) 利用者には担当の職員がおり、1か月に1回のケアカンファレンス会議を全職員で行い、計画作成担当者に利用者の日頃の様子を伝えている。介護計画を立てる前に家族の意向を聞き、内容について相談している。作成後は家族に説明し、署名をもらっている。主治医の意見も参考にしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 1年に1回総合的な長期計画の作成・3ヶ月に1回短期計画の作成・1ヶ月に1回月目標を設定しモニタリングをおこなう。大幅な変更があれば、緊急カンファレンスを行い随時見直す。  (外部評価) 介護計画書は3か月に1回作成し、ひと月ごとのケア目標も決めている。年間で長期計画も立てており、評価も行っている。利用者の状態が変化した際は家族とも相談して見直している。介護度が変更になった時は、新たに作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の個別記録・1ヶ月に1回の個別担当職員のカンファレンス資料と記録・支援経過等を参考にする。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 民家改修型小規模GHなので多機能性はない。  (外部評価) 通院は状況に応じて付き添っている。自宅が見たいとの要望等にも応えている。週1回法人のデイサービスに行くこともある。神社への初詣や、季節の花を見に行くドライブなど、季節感を味わえる外出も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域ボランティアの見守り。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) デイサービスのプログラムの参加。福祉用具の購入や住宅回収の相談。感染症の対策。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護の相談はするが利用には至っていない。運営推進会議のメンバーで助言をいただける。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診・往診・大病院への紹介・訪問看護への指示など多彩。 (外部評価) 協力医療機関が主治医であったケースがほとんどで、引き続きかかりつけ医となっている。希望により、入居前のかかりつけ病院に通院している利用者もいる。受診結果は家族に報告している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関が詳しい。精神科に受診すればよいと思われるケースはまだないが、相談に応じてくれる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎日健康状態を把握してくれている。24時間相談可能な訪問看護と連携している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中は病状の把握ができるよう見舞いや家族への連絡を取っている。病状が安定すれば家族や本人と話し合い退院に向け、医師に相談する。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人家族へは、説明するが重度化しないとなかなか考えがまとまらない様子。看取りを実施しているので方針についてはいつも伝えている。かかりつけ医とは何時でも相談できる。 (外部評価) 重度化した場合における対応の指針を作成し、家族へ説明している。運営推進会議でもテーマに取り上げ、家族や地域の方にできること・できないことを説明している。	※	今の体制での看取りは経営的なリスクが伴うので今後の方針をしっかりと立てたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看取りの指針どおりに希望に沿う援助をする。	※	看取りの時は家族の精神的支えが不可欠だが、介護者も高齢のことが多いので支えるシステム作りが必要と考える。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入院以外の退所はない。入院時も情報は文書で伝える。そういうケースにあえば、出来る限り、支援する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけや対応にむらがあることがある。個人情報の取り扱いは、慎重にしている。  (外部評価) 職員が居室に入る際には、利用者がリビングにいても「〇〇さん、〇〇を取りに部屋に入りますね。」と声かけしながら入室していた。言葉かけは穏やかである。個人ファイル等は扉のある棚に保管し、適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) よく話を聞き、状況を見極め問いかけ希望に沿うよう努めている。が、出来ないこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一定の大きな流れを大切にしながら、できる限り希望に沿うように努めている。  (外部評価) 職員は自分たちで作った理念の「のんびり ゆっくり」を基本に家庭的な雰囲気での介護をしている。日々の利用者の体調や気持ちを考慮し、利用者に寄り添う姿勢で介護をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と行く・訪問してもらう・職員が同行する・職員がカットする。さまざまな選択肢があることを伝えている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえを一緒にし、一緒に食べる。下膳の手伝いや食器洗いを一緒にすることもある。することが難しい利用者やしたくない利用者には無理強いすることなく食事を楽しんでいる。  (外部評価) 利用者は料理の下ごしらえや台ふきなど、できることを職員や利用者同士で会話を楽しみながら行っている。食事介助の必要な利用者には、職員が側で過度に干渉することなくさりげなく支援している。	※	一緒に出来ることを常に考えたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一緒に住んでいる方々に迷惑のかからないように支援している。利用者が医師より禁止されている酒・タバコ・糖類などは基本的には提供しない。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個人記録で排泄パターンを把握できるよう気をつけている。日中と夜間の区別をすることも或る。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) おおむね予定はあるが、ほぼ希望に添えるようになっている。  (外部評価) 利用者から入浴に関する要望は少ないが、週3回を基準としている。夏は随時シャワーを利用し清潔を保っている。	※	入居時にすでに在宅でデイサービスでしか入浴していない・長期の入院でシャワー浴しかしていなかった・自宅に浴室がなかった・ヘルパーさんと昼入浴していた等。特に入居者からの希望がない場合も時間帯や曜日の予定が不都合か利用者や家族と話し合っている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や天候、前日の睡眠時間などにより休んだり眠れたりできるよう支援している。が、かなりの体調不良でない限り自由に過ごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 買い物やドライブ、外食やデイの参加・庭仕事や音楽、そのときどきに能力や好みに合わせ声をかけ支援している。  (外部評価) 歌、ドライブ、散歩、買い物などを好む利用者が多い。その際、職員は何が聴きたい、どこに行きたい、何を買いたい、など利用者を選択してもらい、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や力に応じ支援する。身元引受人とよく相談する。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物にはよく出かける。その日の希望に必ず添えるとは限らない。  (外部評価) 利用者の健康状態や気持ちに配慮しながら、一人ひとりに外出を勧める声かけをしている。車いすの利用者が居室に戻る時にはホームの中を遠回りして帰るなど工夫している。散歩中の写真を撮り、ホーム内に飾って楽しんだりしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 機会は設けている。(今年は、家族とともに観劇に出かけた)		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、すぐできる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間を設定せずにいつでも訪問してもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行い、実践している。 夜間1人体制時、家族の強い希望でベッド柵をすることはある。	※	ベッドから落ちない工夫をしたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外施錠はしていない。  (外部評価) 日中、玄関の鍵はかけておらず、夜は防犯のため施錠している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) さりげない見守りは行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 各居室で個々に対処している。異食の方はいないので普通の家と同じような保管方法だが、注意している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 個々に自立・見守り・支援・代行のみきわめを心がけている。(徘徊が2回あった。)		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の救命研修の参加者はいるが、定期的には行っていない。	※	月に一度のカンファレンスで行いたいと思っている。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 訓練を3ヶ月に1度行っている。近所の方に非難の手助けをお願いしている。 防災グッズを準備・定期点検している。  (外部評価) 非常災害対策計画を立て、職員は3か月に1回訓練を行っているが、利用者参加では実施していない。消防署の指導を受け、避難経路や夜間対応も理解している。職員は利用者一人ひとりの避難時間を計ったり、戸外に衣類や非常食等を備蓄している。近所の民家に避難先の依頼をしている。	※	緊急時の様々な想定と対策は行っているが、看取りまでの支援を行っているホームであるので、利用者の健康状態に配慮しつつ、消防署と行う利用者を含めた実地訓練を期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 急病や怪我に加え、徘徊等についても説明している。	※	拘束を望む家族にも理解を求めよう働きかけたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェック（日ごろから、個々のバイタルを把握しておく）のみならず、顔色や動き・排泄・食事の量などで異変の発見をに努め、速やかに対応する。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別ファイル・個人記録で確認する。症状の変化は、速やかに医療関係者に報告し、指示を得る。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便サイクルを把握し食事・水分の量で調節することも或る。腹圧をかけやすい体位での排泄に心がけている。	※	排便がスムーズになる体操などを試みたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 朝夕は個々に口腔ケアを行っている。昼は個人差があるのでケースバイケースで行う。	※	ほぼ自立されている利用者さんへの働きかけをしたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 記録が必要と思われる利用者は、記録し引き継ぐ。さりげなく声かけし不足分を補えるようにする。 嚥下の困難な利用者には、ミキサー食やきざみ食・とろみなどで食べやすいように援助している。  (外部評価) 栄養士がカロリーや栄養バランスのチェックをしている。食事・水分摂取量を記録している。野菜と海藻の炊き合わせも、嚥下の難しい利用者には大根はそのまま、昆布だけミキサーにかけるなど細かく対応している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルは整備している。 温度・湿度に配慮。 インフルエンザ予防接種（利用者・職員）		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食品管理の研修参加。内部研修。 手洗い方法の徹底。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 門扉は使用していない。 玄関は普通の家になるように努めている。 庭は季節の花を楽しめるようにする。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 部屋の飾りつけは、季節を感じられるように工夫している。  (外部評価) 民家改修型ホームのため、玄関に段差がある、浴室前に更衣室が無いなどするが、職員が見守り、手助けし、カーテンや手すりをつけるなどして利用者が暮らしやすいよう配慮している。利用者はリビングや台所、事務室や居室などでくつろぎ、窓の外の庭木を眺め、落ち着いた生活をしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間での席の配置は工夫している。だいどころや玄関先などくつろげるよう支援している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人・家族と相談の上、家具を調えたり、寝具を整えている。 本人の使い慣れたものを使っている利用者もいる。 家族や日ごろの写真も飾るようにしている。  (外部評価) 居室には自宅から持ち込んだタンスや飾り物、ホームで撮った写真などが置いてある。戸のガラス部分に飛散防止シートを貼ったり、危険であればふすまに取り替えるなどして、利用者の安全を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度・湿度計を準備し、調節している。古い日本家屋なので換気は自然にできているが、気もつけている。 消臭剤の利用		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家具の配置・手すりの設置・などで移動の安全を図っている。	※	身体機能の弱くなった利用者に車椅子のまま安全に降りられるよう階段を改修したい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室のしるし・トイレや洗面所の位置をわかりやすくしている。だいどころや洗濯場は道具がわかりやすくなるようにしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関と裏口から庭に出ることができる。 野菜作りや花壇の手入れが出来る。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。



V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々のケアの中で情報とニーズをつかみ、カンファレンスで職員の意識の統一ができています。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食時は、のんびりと過ごすことができる1番の時間なので、ゆっくりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何もすることがなく、所在無げにしていることが或る。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症が深くなり、支援がついていけない利用者がある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ADLが落ちて外出がしんどくなっている利用者がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	訪問看護と医師の訪問で心配なことを相談できる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個別のケアプランにより安心できると考える。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	新しい利用者の家族には、これからより信頼を得て生きたいと考えている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	家族もあわせるとほぼ毎日となる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	近所の方を招くと輪が広がる。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日全員がというわけには行かないが、ほぼいきいきと働いていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	楽しそうにしていることが多い。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	不平や不満を聞くことはないが、積極的な提案もない。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

住み慣れたところでなじんだ人と最期までのんびり気ままに暮らす手伝いが出来ればいいなぁと考えている。  
本人や家族が希望すれば医療の現場ではなく、家庭のような雰囲気の中で人生最後の時間を混乱のない様すごしていただきたいと考えている。  
民家改修型で落ち着ける雰囲気である。  
いつも利用者の立つ場に立ち、かんがえて行動している。